



newsletter

Nexus-HHC

Japan Home Health Care Alliance

Issue **02**
2021.SEP

〈Nexus (ネクサス): 集団、結合体、つながりや結びつき〉 多職種で在宅ケアを支える日本在宅ケアアライアンスを表すのにふさわしい言葉として、会名にいたしました。



To JHHCA
Message

「患者の思いに沿った医療の提供」が
いかに達成困難であるかを思い知らされる

治療だけでなく、患者さんに寄り添い、暖かく包んであげることが、とても大切なのですね!
吉永 小百合 (日本在宅ケアアライアンス Nexus-HHC 創刊号巻頭言から)



社会医療法人社団 堀ノ内病院
地域医療センター 在宅診療科

小堀 鷗一郎

【PROFILE】

1965年東京大学医学部卒業。
東京大学医学部付属病院第一外科、国立国際医療研究センターの外科に約40年間勤務。定年退職後、埼玉県新座市の堀ノ内病院に赴任。訪問診療に携わり、350人以上を看取る。祖父は森鷗外。著書『死を生きた人びと』(みすず書房)で第67回日本エッセイスト・クラブ賞を受賞。

「治療する」ことは医師の最大の使命である。私は40年間外科医として、目の前の患者を的確に診断し、時期を失することなく手術することが唯一無二の使命と考えてきた。現役を引退して在宅医療に従事して17年目を迎えているが、患者の多くは老衰、悪性腫瘍の末期など、治癒の望めない人びとである。

必然的に医師として求められる役割は、本紙創刊号に掲載された吉永小百合さんの言葉の後半部分、患者の思いに沿った医療の提供である。在宅医5年目の

頃から、「患者の思いに沿った医療の提供」がいかに達成困難であるか思い知らされた。

まず“何も思わない”患者が少なからず存在する。患者に確たる思いがあっても、その思いは家族、なかなか配偶者の賛同が得られなければ実現しない。家族が賛同しても家庭環境がそれを許さないことが多い。家族が日中患者の介護に専念しては一家の生活が成り立たなくなるのである。特に患者の死期が迫っている場合、このような時の頼みの綱は通所介護事業所である。

超高齢化社会を迎えて認知症は誰も人ごとではなく、しかも治癒は望めない。患者に認知症症状がついときは頼みの綱の介護施設が、実は利用困難であることは日常体験する。家族に代わって手のかかる患者の世話を担う介護職員もまた支えを必要としている。

「在宅ケアの普及・推進・向上のために」最も重要な点は、認知症症状を伴う“手のかかる患者”と悪戦苦闘する家族と介護職員を社会がどのように支援するかにかかっているように思える。

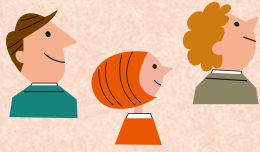
GREETING

在宅医療助成 勇美記念財団 住野勇名誉理事長のご逝去を心よりお悔やみ申し上げます。

名誉理事長の志を継いで、(一社)日本在宅ケアアライアンス(JHHCA)では、日本の在宅ケア・医療に貢献していく想いを改めて強くしています。その活動の一端ですが、昨年からの新型コロナウイルス感染症に対応して行動方針(20.4)、対処方針(20.6)、緊急行動宣言(21.2)の発出、啓発パンフレット・動画の制作などによる取り組みを行ってまいりました。

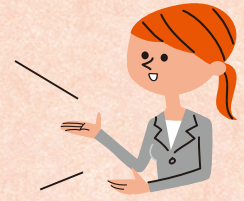
今年5月からは自宅療養者に対する医療提供プロトコルを作成公表しております。また政策当局(国・地方自治体)と現場の情報共有を目指したネットワークを東京・神奈川で立ち上げ、取り組みを開始いたしております。今後、ホームページなどを通じて情報を提供してまいりますのでご覧ください。

一般社団法人 日本在宅ケアアライアンス理事長 新田 國夫



正会員 社員団体紹介

(一社) 日本在宅ケアアライアンスに加盟の社員団体(正会員)の最新の活動内容、今後の展望などを毎号3団体ずつ紹介いたします。



一般社団法人

(J-HOP)

全国薬剤師・在宅療養支援連絡会



幅広いテーマで研修会を実施



奄美市で開催した研修会を伝える新聞記事

J-HOPは、在宅医療にかかわるオール薬剤師(薬局、病院、大学、メーカー、卸等)の団体です。2010年に設立され11年、会員は実務者を中心に約1,300名となりました。

MLによる意見交換、研修会での学び合いや会員交流等を通して、年々、会員個々のネットワークが広がっていると感じています。

「実務者」と「個」が光るJ-HOPですが、日本薬剤師会など職能を代表する団体ともつながりながら活動しています。時代に即した在宅医療推進のためにそれぞれの強みを生かした協力関係を今後も続けて行きたいと思えます。

また、JHHCAが掲げる課題にその一員として薬剤師の立場から貢献できるようにと一部組織を見直しました。災害対策委員会や小児在宅医療部会、入退院支援部会などの設置もその一つです。そして災害対策委員会では災害対応の手引きなどを作成しHPに公開しました。

在宅医療における多岐にわたる薬の問題に適切に対応するには、職種間連携は不可欠です。JHHCAの他団体との関係づくりも今後進めて参りたいと思えます。

一般社団法人

日本訪問リハビリテーション協会



日本訪問リハビリテーション協会のロゴ



研修会の様子

当協会は、2001年度に発足した「全国訪問リハビリテーション研究会」を前身に2012年度より一般社団法人となり通算してちょうど20年目を迎えます。法人理念として、「必要としているすべての人々に良質な訪問リハビリテーションを提供するために、人材育成に努め、学術活動に励むとともに、多職種における協働の推進」を挙げています。

会員は、全国各地の病院・診療所・介護老人保健施設・訪問看護ステーションで活動されている理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、医師を中心に構成されています。

学術活動として毎年2回学術大会を開催し、さまざまなテーマごとの企画研修を行っています。また、2013年度より協会独自の認定訪問療法士制度を制定し、認定訪問療法士として認定し500名以上誕生しました。

協会の中長期ビジョンに「多職種協働の基盤づくり」を掲げ、関連団体の皆様との関係強化に努めて参りますので今後ともよろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人

日本ホスピス緩和ケア協会



日本ホスピス緩和ケア協会のHP

HPでは全国で緩和ケアを受けられる場所を探せる

当協会は、病院のみならず、在宅緩和ケアとして広く地域で提供すること、またホスピス緩和ケアの対象は、がんのみならず、がん以外の疾患にも広げることがめざしています。当協会には在宅療養支援診療所は50診療所、在宅療養支援病院は78病院が加盟しています。

2017年に「在宅緩和ケアの基準」作成し、公表しました。今後、在宅緩和ケアの普及とともに地域包括ケアシステムの下での在宅緩和ケアのあり方、そして在宅緩和ケアの質の評価と保証について取り組んでいきます。2020年度から在宅緩和ケア委員会を発足させました。これから在宅緩和ケア委員会を中心に在宅緩和ケアの普及と質の向上に取り組めます。

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、オンラインを中心に活動しています。例年10月に行っている「世界ホスピス緩和ケアデー」「ホスピス緩和ケア週間」(日本独自の取組)は昨年度から動画による活動紹介を投稿してもらっています。当協会会員以外の方からも広くホスピス緩和ケアを題材にした動画の投稿を受け付けています。奮ってご応募ください。

一般社団法人 日本在宅ケアアライアンス 社員団体

正会員	<ul style="list-style-type: none"> ●一般社団法人 全国在宅療養支援医協会 ●一般社団法人 全国在宅療養支援歯科診療所連絡会 ●一般社団法人 全国訪問看護事業協会 ●一般社団法人 全国薬剤師・在宅療養支援連絡会 ●一般社団法人 日本介護支援専門員協会 ●一般社団法人 日本ケアマネジメント学会 ●一般社団法人 日本在宅医療連合学会 	<ul style="list-style-type: none"> ●一般社団法人 日本在宅栄養管理学会 ●一般社団法人 日本在宅ケア学会 ●一般社団法人 日本プライマリ・ケア連合学会 ●一般社団法人 日本訪問リハビリテーション協会 ●一般社団法人 日本老年医学会 ●公益社団法人 全国国民健康保険診療施設協議会 ●公益社団法人 全日本病院協会 	<ul style="list-style-type: none"> ●公益財団法人 日本訪問看護財団 ●特定非営利活動法人 在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク ●特定非営利活動法人 日本ホスピス緩和ケア協会 ●特定非営利活動法人 日本ホスピス・在宅ケア研究会 ●日本在宅ホスピス協会
	(五十音順)		



うの目 たかの目
メディアの目

迫田 朋子

ジャーナリスト
元 NHK 解説委員 / 福祉番組ディレクター

いまこそ必要な「信頼できる言葉」

「矛盾したメッセージ」をどうしたらよいのだろうか。

政府の新型コロナ分科会の会長である尾身茂氏は、五輪開催前の6月18日に開いた記者会見で、無観客を提言。その際に、五輪は規模と注目度が通常のスポーツとは異なることを指摘、応援などで盛り上がる映像が流れると日頃の対策と矛盾したメッセージとなり、ひとびとの警戒心がゆるみ感染拡大防止のための協力が得られにくくなるリスクがある、との懸念を述べた。去年の go to トラベルのようなアクセルとブレーキを同時に踏むような対策はさすがにもうないと思うが、それでも、五輪開催とそれに伴う様々な映像や言葉は、警戒心のゆるみにつながっている。

首相や都知事から一言言葉のように発せられる「安心安全」も怪しい。まず「安全」が保障されて、そのうえでさまざまなサポートなどがあって「安心」が担保される。日本在宅ケアアライアンスの動画「安全・安心な在宅療養を願う人たちへ」で言えば、感染防御のための具体的な方法が示され、さらに、在宅医やケアサービス提供者になんでも相談してほしい、というメッセージがあって安心につながる。

言葉に、意味と信頼を取り戻さないと状況は改善しないと危惧する。

遠くの名医より

近くの  在宅医



太田 秀樹

日本在宅ケアアライアンス事務局長
全国在宅療養支援医協会事務局長

暮らしをしっかりと支える

毎年夏になると熱中症患者が何人も命を落とします。数年前にはエアコンが壊れた病院で入院患者が亡くなるという事故もありました。医者が出て、看護師が出て、薬も点滴もあったのに、エアコンがないと命を落とします。医療の質云々を語る以前の療養環境の問題です。そして、食の課題も深刻です。サルコペニアの患者が、たくさんの薬を服用している現実もあります。不適切な投薬で、食事摂取量が減少したり、活動性が損なわれたりすることをしばしば経験しています。必要なのは薬より、まず食支援でしょう。

一昨年、老衰との診断で、もうすぐ90歳になろうとする女性が在宅に移行しました。病院ではほとんど経口摂取ができなかったようですが、食事摂取が困難となる病気は見当たりません。栄養ケアステーションから管理栄養士がかかわり、熱心な歯科医師が口腔機能改善に取り組みました。リハビリ職は座位訓練と嚥下訓練、そして、訪問入浴など質の高い多職種協働による万全のチームケアの結果で、みるみるお元気になり、92歳となった今もご存命です。どうやら在宅医の医療の力というには、あまりにもおこがましい結果です。

地域包括ケアシステムが整備され、医療と介護を一体的に提供できる体制がつけられつつありますが、暮らしを支えるケアが、特に高齢者にとっては大切だったのではないかと気づかされる毎日です。

厚生労働省の動き

厚生労働省の医療計画見直しスタート 在宅医療の検討はこれから

厚生労働省は6月18日、2024～29年度の第8次医療計画の指針見直し作業に着手しました。医療計画には在宅医療提供体制が含まれており、都道府県が推進する在宅医療施策の今後を占う上でも重要な指針です。

医療計画とは、都道府県ごとに6年間の医療提供体制の今後のあるべき姿や目標値などを作成するものです。中間年の3年目に進捗を確認して小規模な見直しが行われます。医療計画で、とくに政策的に進めるべき疾病・事業を「5疾病6事業」として具体的な施策を記載することになっており、在宅医療もその一つに位置付けられています。

現行の第7次計画では、医療計画と介護保険事業計画の整合性が図られました。25年には高齢化により訪問診療を利用する患者が17年比で約100万人、地域医療構想での病床の機能分化や統廃合などで生じる介護施設や在宅医療などのサービス必要量が約30万人増加すると見込まれていました。つまり、在宅医療提供体制の整備が焦眉の急とされたのです。

次期医療計画の策定に向け、厚労省はそれまでの「医療計画の見直し等に関する検討会」を廃止し、新たに「第8次医療計画等に関する検討会」を立ち上げました。これに伴い、既存の在宅医療提供体制を検討するワーキンググループも廃止され、新たに設置する「在宅医療及び医療・介護連携に関するワーキンググループ」(仮称)で議論する予定です。

検討会は22年12月末に報告書を取りまとめる予定ですが、厚労省は当面22年4月に開始する外来医療機能報告の検討を先行するとして、在宅医療WGの開催時期や構成員などは示されていません。今後の動きが注目されます。(文責・JHCA事務局)

追悼 住野 勇氏

勇美記念財団名誉理事長



私の伯父であり、弊財団の設立者でもある名誉理事長の住野勇が8月11日、午後6時14分に老衰のため、自宅で息を引き取りました。99歳でした。前日までデイサービスに通うほど元気でしたが容態が急変し、仲の良かった伯母の美代子(名誉理事)の元へ旅立つこととなりました。

本人は120歳まで生涯現役を目標としておりましたので、私も勇が亡くなることを意識することはなく、本当に突然のことでした。独居で2度の脳梗塞を患っておりましたが、ほとんど苦しみもなく旅立つことができましたことは、在宅医療を推進する財団の設立者、並びに名誉理事長として、模範となる最期であったかと思えます。

勇が多くのことに貢献できましたこと、また長い人生を全力で全うできましたことは、多くの皆様の絶大なご支援があったのことに、改めて心より感謝申し上げます。

勇の意思をしっかり引継ぎ、2040年に向け日本の在宅医療の推進に貢献できるよう、財団の運営に取り組んでまいります。今後ともどうかよろしくお願ひ申し上げます。

在宅医療助成 勇美記念財団理事長 住野 耕三

住野 勇氏を偲ぶ

日本在宅ケアアライアンス特別顧問 辻 哲夫

在宅医療助成 勇美記念財団名誉理事長住野勇氏が8月11日に御逝去されました。

振り返ると、1999年に住野勇氏より御夫妻の資産を世のため人のために役立てたいとの相談が厚生省近藤保険局長(当時)になされ、在宅医療の分野がふさわしいとの判断で佐藤智先生が同氏に紹介された、という経緯がありました。

紹介された両氏は大いに意気投合され、「勇」に美代子夫人の「美」を組み合わせた名を冠した「勇美記念財団」が一挙に設立され、以来同財団は日本の在宅医療の発展に多大の貢献をされてきました。

同財団の事業として、全国の在宅医療関係者が一堂に集まる「在宅医療推進フォーラム」には、住野勇御夫妻が毎年参加され、参集した在宅医療関係者はお二人の気さくで温かい笑顔に接し、こぞって感謝の念を捧げたことが懐かしく思い出されます。

住野勇氏は2017年に在宅医療の一層の発展を期して、理事長職を住野耕三現理事長に委ねられ、その思いはしっかりと引き継がれて、財団活動は更に力強いものとなっています。

ここに万感の思いで感謝と敬意の念を捧げるとともに、御冥福をお祈りいたします。



佐藤智先生と一緒に



横にはいつも奥様の美代子さんの姿がありました

告別式に参列して

日本在宅ケアアライアンス副理事長 武田 俊彦

近親者のみの家族葬というご案内でしたが、壮大な生花が並び、故人・住野勇様の幅広い人脈と万人に慕われたご人徳が偲ばれました。

喪主は住野耕三 在宅医療助成 勇美記念財団理事長が務められました。住野理事長の最後のご挨拶によれば、故人は8月4日も出勤され、旅立たれる前日にはデイサービスにも行かれたそうです。

あらためて驚くのは、住野勇名誉理事長が勇美財団を立ち上げたときは、既に御年78歳だったこと。そして2017年に現・住野耕三理事長に理事長職を譲られた後、96歳で新たに住野勇財団を立ち上げたそうです。

オートバックスセブン社では経理部門を担当

され、見事に上場を達成なさったとのこと。おそらくお金には精通し、また厳しい方だったのではないのでしょうか。しかし、お金の使い方には見事なものがあり、本当に偉大な方だったとの思いを強くしました。

最期のお顔はとても穏やかでした。僭越ながら、人生を全うするとはこういうことだと強く感じました。

喪主の住野耕三理事長は、ご挨拶の中で故人の在宅医療への情熱に触れられ、これを引き継いでいく決意を述べられました。ご挨拶を拝聴しながら、私も、日本在宅ケアアライアンスの一員として責任の重さを改めて感じた次第です。

住野勇様、本当にありがとうございました。

いっちゃんの停車場

映画協力者様向け

DVD 期間限定特別予約価格のご案内

※劇場公開にご協力頂いた方へのご案内です。
※個人視聴のためのDVDとなります。

発売日 11月10日にお届け!

〈予約期間〉
9月6日(月)～10月7日(木)
10:00から 23:59まで

【問い合わせ先】
東映株式会社 コンテンツ第二営業部
担当：出口 yas_deguchi@toei.co.jp

スマートフォンのカメラで読み取って
お進みください

**期間限定
特価30%オフ**

税込 5,170円 ▼

税込 3,619円

※送料 600円
※クレジットカードのみ

当法人の目的・趣旨にご賛同いただける個人・団体等に賛助会員としてご協力・ご支援をお願いしております。ぜひ賛助会員にご入会くださいますようお願い申し上げます。

■ お問い合わせ・お申し込みは下記、日本在宅ケアアライアンス事務局まで ■

- 賛助会員
- 医療法人 心の郷 穂波の郷クリニック
 - 一般財団法人 在宅ケアものこと・思い研究所
 - 東邦薬品株式会社
 - 株式会社 大塚製薬工場
 - 株式会社 ニチイ学館

事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町 3-5-1 全共連ビル 麹町館 506
一般社団法人 日本在宅ケアアライアンス事務局
TEL.03-5213-4630 FAX.03-5213-4640 ✉ zaitaku@jhhca.com

HPにも情報を掲載しています

<https://www.jhhca.jp>